

ご声援ありがとうございました

日時：6月1日(土) 会場：加古川河川敷球技場

試合結果

	1	2	3	4	5	6	7	計
小野	0	0	2	0	1	1	0	4
親和女子	0	2	0	2	1	0	×	5

投手：稲岡、山本 捕手：市場 2塁打：市場、森、富田

試合経過

親和女子高校は、昨秋の県新人大会に出場し、攻守にまとまったチーム。2点を先行された3回、一死から9番上月、1番中村(有)が連続センター前ヒットで出塁、2番中村(綾)の送りバントで二死2、3塁として、3番市場がセンターオーバーの2塁打で二者が生還、同点とする。さらに2点を追う5回は、二死1、2塁から4番富田がセンターオーバーの飛球、3塁打で二者が生還と思われたが、これがエンタイトル2塁打となり、結局この回は1点のみ。5回から投手が山本に代わり何とか追いつがる。6回も敵失などで1点差、さらに最終回も二死3塁まで追い詰めるがあと一本が出ず、結局4-5でくやしい敗戦となる。

試合を終えて(主将：市場 麻奈美)

3年生最後の試合、親和女子戦は4-5という1点差の悔しい結果となりました。しかし、試合内容は、私たちそれぞれのこれまでの集大成が発揮できたと思います。エラーもあったし、こっぴど時のあと一本が出ず、十分納得のできる試合ではなかったけれど、それも全部含めて私たちの実力だったんじゃないかなと思います。結果的には負けてしまい悔し涙を流しましたが、誰一人として最後の最後まであきらめず全力でプレーし、元気な声を出して一丸となって戦えた試合だったので本当に楽しかったし、私自身本当に満足の良い試合が出来ました。

3年生8人が全員が悔いなくすっきりした気持ちで引退した、といえは嘘になります。でも、この日まで暑い中寒い中2・3年生誰一人辞めずにつらい練習を張ってこれたことを誇りに思い3年生は引退したいと思います。

先輩から部を引き継ぎ、はじめはピッチャーも野手もすべて一からの穴だらけのチームで、顧問の西田先生には色々苦勞をかけてしまいました。でも、最後の最後までたくさんの練習試合を組んでくださり、ここまでできるようになったと感謝しています。またこの4月から顧問になり、忙しい中練習に来てくださった木村先生、本当にありがとうございました。

また、忙しいにもかかわらず、練習試合での送迎当番をお願いした父さん・お母さん方本当にありがとうございました。いつもキツイことを言い続け、たくさんたくさん悩んで泣いて、体の痛いのもこらえて一緒に頑張ってくれた3年生、キャプテンを最後までやらしてくれてありがとう。優しく、最後まであきらめない気持ちの強い7人と2年間共にソフトボールができて私は幸せでした。人数が3人しかなくて用意など大変だったのに、にこにこしながら、でも試合で失敗すればいつもいつも泣きながら私たち3年生のために必死についてきてくれた2年生、本当に今までありがとう。

私たち3年生は、6月1日でソフトボール部を引退しましたが、これからはこの2年間で学んだ根気で受験という大きな壁に向かって頑張っていきます。

試合風景



新チームのあいさつ(新主将：中村 綾花)

志高く

私たち小野高校ソフトボール部は、2年生5人、1年生5人の計10人で新チームをスタートしました。10人中2人は初心者、また中学校からのブランクのある部員もいて、決して楽な状況ではありません。もしかすると、初めての試合は思うような試合ができないかもしれません。しかし、私は、このチームは一人一人が未知の可能性を秘めていて、十分に伸び代があると思います。練習すればするほど、うまくなれるはずです。そんな私たち、今、最も必要なことは「基礎固め」です。ソフトにおける基礎を固めることはもちろん、その他の面でも基礎固めを徹底します。先生方への挨拶、素早い行動など、部活を人間的にも成長していける場にしていきたいと思います。

6月に、66回生の先輩方の最後の試合が終わりました。昨年からのチームの「但馬ドームで一勝する」という目標は残念ながら達成することができませんでした。しかし、私たちは先輩の背中から、諦めないこと、他人を思いやる気持ち、自分に負けないことなど、本当にたくさんを学びました。そして、そんな先輩方の「但馬ドームで一勝する」という目標を私たち新チームが受け継ごうと決意しました。但馬ドームへの道のりは決して楽なものではなく、今の私たちの力ではとても厳しいと思います。しかし、新チームはまだ始まったばかりです。「志高く」というスローガンを掲げたこのチームで、各々が明確な目標を持ち、チーム全体では「但馬ドームで一勝する」という目標に向かって努力していきます。日々の練習を全力で取り組んでいきます。これからも応援をよろしくお願いします。